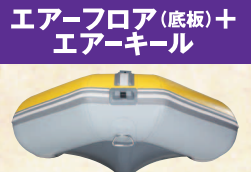


Achilles TECHNOLOGY

アキレステクノロジー

デッキ・船底構造へのこだわり



ボートと一体型のフロアで、空気を入れるだけで、走行性の高いV型の船底構造を作り出します。PVCボートの一部で採用しており、PVCならではの剛性により底板艇に近い走行性を実現しています。

船底に配置された筒状のエアー体をエアーフロア(底板)で押し下げ、船底の構造をVの形にさせています。このエアーキール構造により、走行性・波切り性を高めます。

FRPの船底構造で剛性が極めて高く、ボートチューブによる安定性を併せ持つミニボートの理想形です。

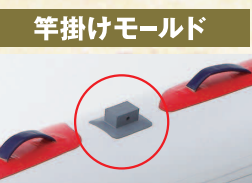


低馬力の場合にはプレーニングが速くなる効果があるため、2馬力に採用しています。(LFシリーズのみ)

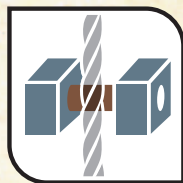


プレーニング時の走行性に優れ、操作性も優れるため、高馬力向けに採用しています。

パーツへのこだわり



多目的な使い方を可能にする。竿を固定させるパーツ等を取り付けることも出来ます。



アンカーを上げ降ろしやすくするためのガイド。ボート本体の擦れ防止にも役立ちます。



船首のモヤイロープ取付と運搬用グリップを一体化しています。金具がL字型をしているので指をはさむ心配がありません。



乗船者用のライフラインパーツ。CSM製(国産)では、クッション入りの柔らかいグリップ。



接触時のクッションの役割や、走行中の水しぶきを軽減させる効果があります。CSM製(国産)ボートでは国産PVCモールドで耐久性を非常に高めています。

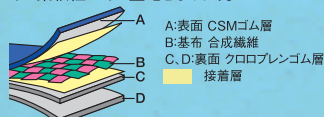


ローボートのスタンダードモデルに採用。椅子板とボートを紐で固定する椅子板で、単純な構造ですので誰にでも固定しやすく、椅子板をガッチリとグリップしてくれます。

アキレスボートの素材へのこだわり

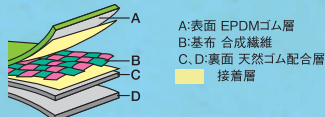
アキレスではゴム・PVC(塩化ビニール)の強度を保つ繊維にもこだわりを持っています。dtexとは、1万mの長さの糸の重さ(グラム)を表します。数値が大きい程、糸の太さ・強度が増しますが、重さも増します。また、ナイロン素材は柔軟性に優れ、ポリエステル素材は剛性に優れています。どれだけ太い繊維を使用しても鋭利なものに接触すれば破れることはあります。そこでアキレスは1100dtexにとらわれずにコンセプト・お客様のニーズに合わせた適切な繊維を選択することを重視しています。そして、素材へのこだわりから独自の保証期間と無償修理の体制を設けているのです。

アキレス CSM製 **CSMゴム(国産)**
アキレス独自の高級ゴム素材。インフレーターボートの中で最高級の素材とされ、非常に長持ちで、気温変化、耐油性、耐候性にも優れています。ポリエステルとの組み合わせでは剛性がある生地となり、ナイロンとの組み合わせでは柔軟性がある生地となります。



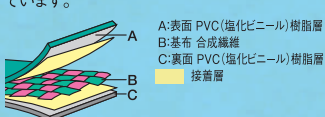
屋外環境下での高い耐久性があり、ボート素材として最適。レジャー用からヘビーデューティモデルまで採用。

エコストロン製 **エコストロン(国産)**
CSM同様、ゴム素材のため、気温変化に関係なく一定のしなやかさがあります。また、軽量でコンパクトに折り畳むことが出来るため、運搬性にも優れています。現在、ナイロンとの組み合わせで展開しています。



非フタル酸エステル、ノンハロゲンで環境に配慮した、アキレス製のインフレーターボート専用素材。

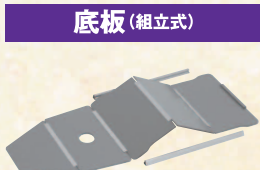
PVC製 **PVC**
加工が簡単で耐摩耗性に優れていて、材料費が安いコストパフォーマンスのある材質です。気温の変化で硬さが変わる特性を持っていて、夏は柔らかく、冬は硬く嵩張ってしまいます。現在、ポリエステルとの組み合わせで展開しています。



広く普及している素材。インフレーターボート用の要件を満たしながらコストパフォーマンスに優れている。

ナイロン製 **ナイロン**
伸び縮みがある素材で、柔らかい乗り心地を作り出します。また、ポリエステルに比べ、比重が軽い為軽量&コンパクトなボートに採用しています。

ポリエステル製 **ポリエステル**
伸縮性が少なく、硬い剛性のある生地を作り出します。ナイロンに比べ、比重もあり、剛性の必要高馬力のボートに採用しています。



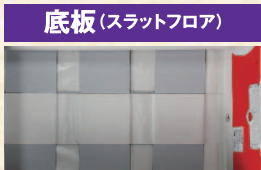
底板 (組立式)

組立に手間は掛かりますが、**剛性は高く、走行性に優れています。**安定性もあり、船内での作業も行ないやすい構造です。アルミに比べて重量が軽く、運搬性に優れたバランスの取れた船底構造です。



底板 (折りたたみ式)

接合部分をターボリンヒンジでつないだ折りたたみ式です。サイドバテンを入れる必要がなく、簡単にセットできます。(ローボート及び一部LFシリーズで採用)



底板 (スラットフロア)

必要最低限の板をあらかじめ数枚配置。空気を入れるだけでボートが組み上がります。



エアフロア

※デッキ部分に傷がつきにくいようにシートなどを敷くと長持ちします。

走行性はアルミフロアや底板に比べると劣りますが、**折りたたみがしやすく、軽いため、運搬性に優れています。**逆に剛性は弱いので、走行性を高めるためにチューブの太さを大きくして剛性を高めたり、フロアの下に板を敷くことで剛性を高めています。



アルミフロア

組立に手間は掛かりますが、**剛性は非常に高く、走行性に優れています。**安定性もあり、船内での作業も行ないやすい構造です。アルミの場合、重量自体は重くなります。



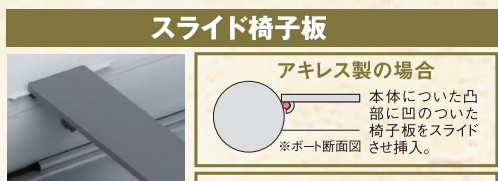
ロープガイド補強

アンカーのロープ擦れをワイドに防ぐためのPVCモールド。



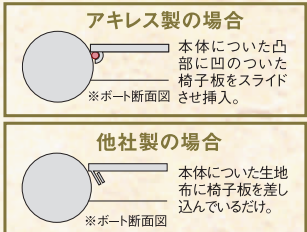
セルフペラー

船内に溜まった水を走行中に排出します。逆流防止弁が付いているので開放したままでも浸水を抑えます。



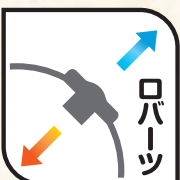
スライド椅子板

アキレスのオリジナルの板は椅子板の裏にある固定具に本体の座をスライドさせて装着しますので、取り付ければ走行時の上下振動に対しても強力にガードしてはくれます。他のものと比べてみてください。



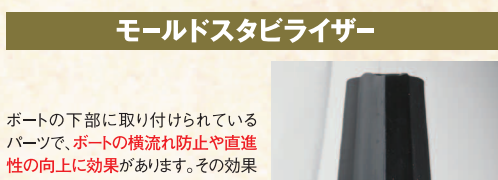
PHNバルブ

空気の**充気・排気**が**素早い**のが特長で、アキレスボートの長年の実績から開発された独自のバルブです。



ローパーツバルブ

PVCボートに採用しているバルブで、操作が簡単なシンプル設計ですが、PHNバルブに比べて空気は抜けにくい構造です。



モールドスタビライザー

ボートの下部に取り付けられているパーツで、**ボートの横流れ防止や直進性の向上**に効果があります。その効果はローボートや2馬力での走行時にはあまり見られませんが、高速艇(9.9から15馬力)になるとより実感できます。アキレスではそういった直進性等への効果以上に、インフレーターボートの一番こすれる部分に保護材として活躍させる事に重きを置き、独自の△構造の**スタビライザー**を採用しております。



エンドコーンのこだわり

図面のようにトランサムの後部にある形状で様々なものがあります。一般的に高馬力でプレーニング(滑走)状態になればこの部分はあまり影響を及ぼしません。

ただし初心者向けの2馬力では後部に浮力があればあるほど、状況によってはプレーニング(滑走)状態になることができます。アキレスでは**First Adventure (LFシリーズ)**にこれを採用致しました。

より一層初心者の方に安心して使用していただけるご提案です。

LFシリーズは従来より

30%の浮力UP!

※従来とは2010年度モデル以前です。
※浮力30%UPはトランサムより後部を指します。

エンドコーン形状別の浮力イメージ図

LF series
従来のLF series 2010年度モデル以前
一般的なエンドコーン

ボートの圧力について

アキレスのボートはローボート、パワーボートに関わらず**20kPa (200mbar) の圧力**に耐えられます。20kPa (200mbar) 以下の圧力で走行していると、かえってボートの椅子板、底板やボート自体にも悪影響を及ぼす事となりますので、それぞれ適正の圧力にてご使用ください。

★ボート適正圧力
本体チューブ20kPa (200mbar)、エアフロア50kPa (500mbar) とお考えください。

★プレッシャーゲージ
(29ページのパーツをご参照ください)にてご確認頂けます。

